

＜安心して自分を出せるようにする指導＞

好きな遊びを楽しむ中で周りの幼児に自分を出せるようになったJ児		
入園当初、母親から離れることに抵抗はなく登園する。新しい環境の中で落ち着かず、保育室や廊下を駆け回る。顔見知りの幼児はいないが、周りの幼児への関心は高く後を追いかけている。言葉数は少ない。身の回りの始末など援助を必要とする。		
時期	J児を中心とした幼児と教師の言動	○教師がとらえた幼児の思い *教師の意図
4/19	○教師が園庭に誘うと、J児は手を教師と手をつなぎ、同じように自分からは遊び出せない新入園児のB児とH児と一緒に滑り台で遊ぶ。J男は表情が明るい。幼児同士の会話は少ないが、教師と一緒にいることで繰り返して遊ぶことを楽しんだ。	○同年齢の幼児に接することに抵抗はない。 *好きな遊びを楽しめるようにしたい。
5/22	○保育室。J児は3年保育の活発な男児のグループの後を目で追いかけて、グループの側で真似て行動するようになる。男児のグループはJ児のことを気にしないで会話をしたり遊びを変えたりしている。その様子を少し離れて見守った。	○かかわりはなくても真似ることが楽しいようだ。 *J児のしたいことを十分にできるように自然なかかわりを大切にしたい。他児には特に声は掛けないでいよう。
5/29	○自分からB児H児の側に行き、B児の肩を指で触れながら「お外に行こうよ」と声を掛ける。B児とH児J児は顔を見合わせうれしそう。3人で「お外に行ってきます。」と教師に言うので「行ってらっしゃい。」と見送る。	○幼稚園生活に慣れてきた。B児とH児には自分がかかわりやすいようだ。
5/31	○動物の形に切り取った当番カードを見付ける。J児は色をぬっている幼児を見て「これ、色ぬっていいの？」と教師に聞く。「いいんだよ。」と答え、使う物や、やり方を身振りを交えて伝えると、うれしそうに始める。	○楽しそうに活動する友達が刺激になっている。 *J児の問いには特に丁寧に安心できるよう答える。
6/20	○砂場で遊ぶ。同じ場に5、6人の幼児はいるがJ児は他の幼児とはかかわりなくひとりで遊んでいる。夢中になって穴を掘ったり水を流したり繰り返している。他の幼児がジャングルジムに移動した後、周りにいた幼児がいなくなったことに気付く。教師は「J児君も一緒に行く？」と聞く。首を横に振りそのまま遊び出すが今までの勢いが無い。教師は「先生もここ掘っていいかな。」と言って側に寄り添う。	○同じ場所に他児がいることで安心してはいたが、いなくなり寂しそう。 *J児の寂しい気持ちに添う言葉を掛けたい。
7/4	○学級の幼児全員でプール遊び。J児は教師が見守る中、不慣れた水着の着替えを頑張り、ニコニコしながら準備体操を済ませて水遊びを楽しむ。少しぐらい水がかかっても喜んでいいる。プールから出るよう教師や友達が言っても出ようとしない。そんな様子を受け止めて少し時間が経ってから「楽しかったからもっと遊びたいよね。また明日もプールで遊ぼうね。」と声を掛ける。	○水の感触を楽しみ開放感を味わっている。みんなと一緒にいることがうれしい。 *みんなと一緒にプールから出てほしいが、満足感を味わわせたいので、少し長くさせてもよいかと

8/30	○夏休み明け2日目。目がとろんとしている。ボーとして遊ばない。母親に様子を話すと夏休み中生活のリズムが乱れた様子である。	様子を見て再度声を掛け直す。 ○リズムが取り戻せず遊ぶ意欲がもてない。
8/31	○母親が外出をする予定の日。「一緒に行きたい。」と言って門のところで登園を渋ったようだ。教師がテラスで迎えるといつものように保育室に入っていく。	*園での様子を具体的に伝えて母親に生活リズムの立て直しを求める。 ○友達との関係も薄いJ児にとって、頼りにしている母親が家にいない不安は強いだろう。
9/11	○強い口調で物言うK児に「順番が違っている。」と指摘されて、赤ちゃんのように泣きじゃくる。教師が背中をさすりながら「K児は教えてくれたんだよ。泣かなくても大丈夫だよ。」と言ってもなかなか泣きやまない。	○家庭の事情があり、不安定な様子である。
10/23	○運動会に向かってみんなと一緒にかけっこや遊戯をしたことが楽しい経験となった。運動会ごっこをする幼児があまりいなくても、J児はひとりでハチマキをして園庭を走る。J児の様子にK児らも刺激されて一緒に走るとJ児は一段とはりきって走る。教師「J児君頑張れ。速いね。」と声を掛ける。得意そうに一段と手を振って走る。	*入園時期のかかわりに戻って安心感を与え、教師が支えよう。 ○運動会に向けて初めの頃は戸惑っていたJ児だったが、楽しい経験となって再現するようになる。
10/25	○年少児が「年中組の踊りの曲掛けて」と言ってくる。スティックを持ってJ児も「僕もやりたい。」進んで仲間に加わる。自信をもって踊っている。教師も一緒になって踊る。	*J児の遊びへの意欲を認めて自信をもたせよう。 ○自分のやりたいことに自信をもっている。 *楽しさを共感しよう。
11/15	○今まで加わっていなかったサッカーに自分から「仲間に入れて」と言う。年中児対年長児でJ児はまだルールがよく分かっていないが給食前まで抜けないで遊ぶ。教師は年長児が「J児君他の年中組は辞めてもずっと続けていた。」と言っていた言葉をJ児に伝えて認める。	○やりたい気持ちを言葉に出せた。 *年長児の言葉を伝えることでJ児の成長を認めるようにする。
11/20	○母親があまりかかわれない家庭の事情があっても、夏休み明けのように登園を渋ることもなく、学級のみんなでお楽しみ発表会に向けて、オペレッタでの自分の役を楽しんで演じている。	○学級の友達との結びつきが確かになっている。 *学級の友達と同じ目的に向かって力を合わせる喜びを味わわせたい。

<考察>

入園当初新しい環境に、落ち着かない様子を見せたJ児は、B児とH児と仲良くなってきたことや幼稚園に慣れたことやいつも見守る教師の存在により、遊具や友達への関心を行動に移すことができるようになったことが分かる。初めてのことへの戸惑いや友達とうまくかかわっていけない寂しい気持ち、夏休み中の生活リズムの乱れや母親があまりかかわれない家庭の事情による不安定な気持ちを受け止めるようにしてきた。泣いたり黙って相手を見たりはするが言葉で思いを出せなかったJ児のありのままの姿も受け止めながら、状況に応じた環境や言葉掛けを行ってきたことで、「僕もやりたい。」「仲間に入れて。」と自分の思いを言葉に出せるようになってきたと考える。そして、友達とやってみたいことを繰り返すようになり、自分が出せるように変容しつつある。自分なりの遊びが十分楽しめるようになったことを認める周りの幼児や教師の存在が、J児の自信につながったと考える。

<共に活動する時間を充実して過ごせるような指導>

みんなで行ったゲーム遊びが友達とかかわって遊ぶペースになっている事例

1

幼児たちの「また、やりたい。」という要求で、降園前の時間を利用して、みんな座れる椅子取りゲーム（事例6）を続けている。ルールをよく覚え椅子の増減をやろうとする幼児もいる。降園の支度が、みんなでのゲームを楽しみに以前より早くできるようになっている。

時期	幼児と教師の言動
11/22	○お楽しみ会の合奏で使う楽器を自由に使えるように、テーブルの上に種類別に置くと、C児とE児が好きな楽器を選び、教師に「音楽をかけてください。」と言って自由に打ち始める。 ○B児とD児とP児は相談するような仕草でうなずき合い、好きな楽器を選んで仲間に加わる。ニコニコとうれしそうである。自由に叩きながら次第にリズムが揃ってくる。教師にし違う曲を催促したりして、しばらく楽しむ。 ○C児の「ねえ、椅子取りゲームしようよ。」呼びかけでその場にいた幼児が、廊下から椅子を運び丸く並べる。C児「私がこれで叩くからみんな動いてね。」とタンバリンを持って言う。B児E児は「私もしたい。」「次に貸してね。」などと言う。 ○C児は「始めるよ〜。」とおどけた表情でタンバリンを叩き始める。「ストップ。」と元気に言い、同時にタンバリンを叩くのを止める。「みんな座れたね。」「今度どうするか?」と周りの幼児に聞く。 ○E児が「椅子を減らすんでしょう。」と言う。周りの幼児が反応して椅子を減らす。「減らし過ぎだよ。」と口をとがらしながらもうれしそうに言う。「椅子に座れなかった人は膝に乗っていいんだよ。」と言って、自分はいつでもスタートできるよう体の向きを変える。

<考察>

12月のお楽しみ会に向けてオペレッタを楽しんでいる幼児たちである。思い思いに遊ぶ場面で友達とグループになって遊ぶことが増えてきた。自分の思いを言葉で言って遊んでいる様子も見られるようになってきている。上記の事例は楽器を自由に楽しめるようにした環境で、楽器遊びから降園前に楽しんでいるみんな座れる椅子取りゲームを自分たちで始めた幼児の様子をまとめたものである。みんなで楽しんだゲームを遊びの場面で準備したり話し合う様子が見られた。教師の幼児に投げ掛けながらの進め方が幼児が自分たちでも、ゲームを展開できるようにしていたと考えられる。この後タンバリンを交代したり椅子の向きを変えたりして遊んでいた。最後には、膝に座るやり方から座れなかった幼児が楽器を持って応援する側になるなど楽しんでいた。